

## 宿泊施設における 事業継続のための新型コロナウイルス感染拡大予防対策例

令和2年5月21日  
鳥取県くらしの安心推進課

新型コロナウイルスの感染予防に努めながら営業を継続するため、宿泊施設が実施するサービス等の場面ごとに発生するおそれがある感染リスクへの対策例を整理しました。

皆さんの施設の状況や実情に合わせて実践してください。

※この対策例は5月21日時点で作成したものであり、最新の情報に基づき適宜更新していきます。

### 予防方法

- 3つの「密(密閉空間・密集した場所・密接した会話)」がそろう場所を避けましょう。  
3つの条件が揃う場所でクラスター(集団)発生のリスクが高まります。できるだけ、3つの条件を避けるなど、感染予防にこころがけましょう。

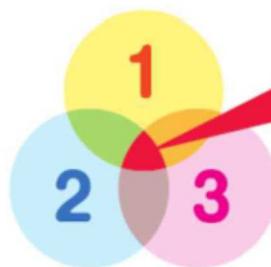
①換気の悪い  
密閉空間



②多数が集まる  
密集場所



③間近で会話や  
発声をする  
密接場面



3つの条件がそろう場所が  
クラスター(集団)発生の  
リスクが高い!

※3つの条件のほか、**共同で使う物品**には  
消毒などを行ってください。

- 手洗いをしましょう。

外出先からの帰宅時や調理の前後、食事前などに、こまめに石けんやアルコール消毒液などで手を洗いましょう。

手洗い方法は裏面を参照ください。

- 咳エチケットをこころがけましょう。

咳やくしゃみが出るときは、ハンカチや袖などで鼻と口を覆ったり、マスクを着用するなどの咳エチケットを心がけましょう。

咳エチケットの方法や正しいマスクの着用方法は裏面を参照ください。

## 宿泊施設の営業場面ごとの感染拡大予防対策

### 1 従業員の体調管理

- 従業員に出勤前に体温を測定させ、発熱や咳、咽頭痛等の症状がある従業員は自宅待機させましょう。
  - ▶ 従業員の体調不良を事前に把握することが重要です。体温測定は必須ではありません。
- 感染した従業員や濃厚接触者と判断された従業員の就業は禁止しましょう。

### 2 施設の管理・清掃

- ロビー等の共用エリアや客室は定期的に窓を開けるなど十分に換気をしましょう。
  - ▶ 窓がない場合は換気扇、扇風機なども活用しましょう。
  - 通路や階段等の外気が入りにくい場所は、常時換気しましょう。
  - 空調に外気導入する機能がある場合は、外気導入に設定しましょう。
  - 換気能力が落ちないよう、換気扇や空調のフィルタを定期的にクリーニングしましょう。
- フロントには、宿泊者と従業員の直接の対面を避けるためにアクリル板や透明ビニールカーテンを設置しましょう。
  - ▶ 飛沫感染を防止することが重要です。宿泊者と従業員がともにマスクを着用するなど咳エチケットを実践していれば遮蔽対策は必須ではありません。
- ロビー等の共用エリアではマスクを着用するよう掲示しましょう。
- エレベータ内が過密状態にならないよう、複数グループが同乗しないようにするなど乗車人数を制限し、エレベータ内では会話を控えるよう掲示しましょう。
- 共用洗面所のハンドドライヤーの使用は控えて、ペーパータオルを用意しましょう。
- フロントデスク、筆記用具、ロビーの家具、共用パソコン、エレベータのスイッチ、廊下や階段の手すり、ドアノブ、自動販売機のボタンや取り出し口、共用の履物、トイレ等の宿泊者が共用する部分は、定期的に拭き取り清掃・消毒しましょう。
- 喫煙室は使用時以外も常時換気し、吸い殻交換とテーブル清拭を頻繁に行いましょう。

### 3 接客

- 接客時にはマスクを着用するなど咳エチケットを実践しましょう。
  - ▶ 宿泊者へは、マスク着用での接客に御理解いただくよう伝えましょう。
- こまめな手洗い又は手指消毒といった手指衛生を徹底しましょう。
- 直接対面で接客するときは、可能な範囲でフィジカルディスタンスを確保しましょう。

### 4 フロント業務

- フロントで手続き待ちの宿泊者が密集しないようにしましょう。
  - ▶ 間隔を空けて並んでいただいたり、分散して待機していただき呼び出し対応をしたり、客室等複数箇所で行うなど工夫しましょう。
- 長時間の対面を避けるため、オンライン決済の活用などフロントでの手続きを工夫しましょう。
- 出入口及びロビー内に手指の消毒設備を設置し、宿泊者に入館時の手指消毒を依頼しましょう。
- チェックインの際は、検温や健康チェックリストによって宿泊者の体調を確認し、発熱や咳等の体調の異変が生じた場合は速やかに申し出るよう伝えましょう。
- 館内・客室の案内は、従業員による説明ではなく、文書や動画を用意しましょう。
  - ▶ 用意できない場合は、フィジカルディスタンスを確保して説明しましょう。
- 団体旅行者を受け入れる場合は、代表者がまとめて手続きを行い、他の宿泊者は分散して待機するよう要請しましょう。
- 返却されたルームキー・キーカードは消毒しましょう。

## 5 食事提供

- レストラン等で食事を提供する場合は、「飲食店における事業継続のための新型コロナウイルス感染拡大予防対策例」を参考にして、密閉、密集、密接の感染リスクを減らしましょう。
- 宴会・会食等の団体での食事の場合、お酌や盃の回し飲みは控えるよう要請し、鍋料理や刺身盛り等は一人鍋、一人盛りにしましょう。
  - ▶ 大鍋や大皿で料理を提供する場合は、従業員が取り分けるか、お客様の中で取り分け役を決めて、トング、取り箸等を使い回さないようにしましょう。
- 客室で食事を提供する場合は、できるだけ一度に料理を提供して従業員の入室回数を減らし、客室入室後は手指消毒してから料理を並べましょう。
- ビュッフェ方式はセットメニューでの提供に代えることを検討しましょう。
  - ▶ ビュッフェ方式で食事を提供する場合は、料理を小皿に盛って提供する、スタッフが料理を取り分けるなどの対策をとりましょう。
- 下膳作業を行った従業員は手指消毒をしましょう。

## 6 入浴（大浴場）

- 浴場や脱衣所は定期的に窓を開けたり、換気扇を常時使用するなど十分な換気を行いましょう。
- 浴室入口に、混雑時の利用を控えるよう貼り紙をしたり、従業員から声かけを行うなど、同一浴室内に一度に多人数が入浴することのないようにしましょう。
- 浴室内ではフィジカルディスタンスを確保し、会話は控えるよう注意書きを掲示しましょう。
- 浴室内の備品（ドライヤー、ソファ、マッサージ機、体重計等）はこまめに清拭消毒し、使用者も使用の際に清拭消毒するよう貼り紙等で要請し、消毒用品を備え付けましょう。
- 浴場での貸しタオルは中止し、客室から清潔なタオルを持参するよう要請しましょう。
- 化粧品・ブラシ等は持参するよう要請しましょう。
  - ▶ 共用の化粧品を置く場合は、使用の際にボトル等の触れる部分を清拭消毒するよう要請し、消毒用品を備え付けましょう。
  - ▶ ブラシを用意する場合は、使用者ごとに消毒済みのものを使用できるようにしましょう。

## 7 チェックアウト後の客室及び浴場清掃

- 清掃は、窓を開けて十分に換気してから作業を開始しましょう。
- ドアノブ、スイッチ、リモコン、ハンガー、スタンド、電話機、ポット、洗面所のレバー、備え付けのアメニティ、館内用スリッパ、外出用の下駄、浴場のロッカー内部など、宿泊者がよく触れる部分は入念に拭き取り清掃・消毒しましょう。
- 清掃やリネン回収を行う従業員は、マスクや手袋を着用しましょう。

## 8 その他

- 送迎車の運転席と後部座席をビニールシート等で仕切りましょう。
- 洋式トイレでは蓋を閉めて汚物を流すよう呼びかけましょう。
- 客室のゴミを回収し一時保管する場合は、ビニール袋に入れて密封保管しましょう。
- ゴミ出しを行う場合は、マスクや手袋を着用しましょう。

# 正しい手洗い・マスクの着用方法

新型コロナウイルスを含む感染症対策の基本は、「手洗い」や「マスク着用を含む咳エチケット」です。

## ①手洗い

### 正しい手の洗い方

- 流水でよく手をぬらした後、石けんをつけ、手のひらをよくこすります。
- 手の甲をのぼすようにこすります。
- 指先・爪の間を念入りにこすります。
- 指の間を洗います。
- 親指と手のひらをねじり洗います。
- 手首も忘れずに洗います。

## ポイント

- ・手洗いの前に爪は短く切って、時計や指輪は外しておきましょう。
- ・30秒間かけて手を洗いましょう。
- ・石けんで洗い終わったら、十分に水で流し、清潔なペーパータオルでよく拭き取って乾かしましょう。

## ②咳エチケット

### 3つの咳エチケット

電車や職場、学校など人が集まる場所でやろう

何もせずに咳やくしゃみをする ✗      咳やくしゃみを手でおさえる ✗

マスクを着用する (口・鼻を覆う)      ティッシュ・ハンカチで口・鼻を覆う      袖で口・鼻を覆う

マスクがない時      とっさの時

### 正しいマスクの着用

- 鼻と口の両方を確実に覆う
- ゴムひもを耳にかける
- 隙間がないよう鼻まで覆う

<参考> 消毒液の作り方 (厚生労働省・経済産業省作成チラシから抜粋)  
 以下を参考に、市販の塩素系漂白剤 (主成分が次亜塩素酸ナトリウムであるもの) を薄めてください。  
 ・ハイター、キッチンハイター (花王)  
   水1Lに25mL (商品付属のキャップ1杯)  
 ・ブリーチ、キッチンブリーチ (ミツエイ)  
   水1Lに10mL (商品付属のキャップ1/2杯)  
 ※商品によって濃度が異なりますので、商品パッケージやメーカーのHPの説明をご確認ください。